

魚まち通信

発行責任者 魚まち歩観会
会長 大橋 宏毅

影絵で楽しむ漁師町の民話

一人でも多くの人に長島の漁師町に
伝わる民話を知ってもらおうと、影絵劇で
かんからこぼしやたかぼっさんのお話を上演。



2月11日、東長島公民館の和室で紀伊長島区の小学生と保護者、有志の8人でつくる「かんからこぼし座」が影絵劇を上演し、児童や保護者70人が珍しい影絵の世界を楽しんだ。
歩観会会長挨拶の後、上演を前に民話の再話者の小倉肇教育長より、民話の役割について、桃太郎を例にあげ、子どもや保護者に向けた楽しい解説があり、紀伊長島に伝わる「たかぼっさん」や「か

ぼっさん」が登場する。また、民話の世界に引き込まれていった。続いて、影絵遊びがあり、シルエツトだけで身近にある文房具、野菜、日用品をあてるクイズが出され、子どもたちが熱心に答える姿がみられた。
「湊治郎左衛門とかんからこぼし」では、1991年の燈籠祭りに作られた常田富士男のナレーションに合わせた影絵を演じた。迫力のあるセリフに負けない動きや間の取りかたに終了後、

大きな拍手が送られた。

『魚まちガイド公開講座』のお知らせ
-文化歴史を語り継ぐ-
魚まち歩観会は、4月より平成20年度「魚まちガイド公開講座」を開始します。ただ今、ボランティア・ガイド受講生を募集中です。

▼世界文化遺産に指定された熊野古道を始め、この地方には有形無形のすばらしい「歴史や文化」が眠っています。魚まち歩観会は町おこしの一環として、こうした歴史や文化を皆さんと共に学び、町を訪れる方や次世代を担う子供たちに伝えたいと思います。▼今回の「魚まちガイド公開講座」は、出来るだけ現地に足を運び、ガイドの実演を通して能力の向上を目指します。ガイドブックも、

わかりやすく覚えやすいものを用意しましたので、初めての方でも心配ありません。前回参加された方もぜひ参加してください。もし皆さんに、「町歩きが好き」「長島が好き」だから、魚まちの歴史や文化をもっと知りたい」という気持ちがあれば、ぜひ参加してください。▼講座を終了された方には、「修了証書」を差し上げ、楽しいイベントトへのご招待(自由参加)もあります。

●お問い合わせ / 開催日時
魚まちガイド公開講座(第1回)
日時: 4月27日(日曜日)午前10時~
集合場所: 多目的会館
内容: 30分ほど多目的会館で説明を受けた後、実際に町を歩きます。
連絡先: 紀北町役場 産業振興課 商工・観光係
TEL: 0597-32-1111

昔より長島は「魚まち」その繁昌の様子。長島浦は良い漁を持ち、人家も多く五百軒を超える。と江戸時代の旅行ガイドブックに紹介されている。とりわけ、海産物加工の中心は「浦町」であった。大正期に海岸堤防が出来た後は、横は外波が打ち寄せる海岸で、多くの漁船・貨客船が出入りした。多くの「いさば屋」が建ち



陶板で魚まち紹介

第7回「浦町のいさば屋通り」
(陶板24番浦町)

並び、狭い通りは活気に溢れている。久保幸夫氏が書いて居られる。長島浦では、古来より海産物問屋のことを「いさば屋」と呼んでいた。年々その由来を知りたいと願っていたところ、民俗学者・谷川健一氏の一文に出会い、謎が解けた。「イサバ(五十集)」とは、魚市場を表す言葉であった。時は移り、今や大型漁船やトラック輸送の時代、「いさば屋」の多くは江の浦湾周辺に集まっており、浦町地区に残るのは、丸正水産・上保商店・マルキ海産・又吉屋・蒲長などわずか。

「阿波屋」には、かつての店構色が色濃く残っている。参考文獻: 北村博司著「紀伊長島の歴史と文化を歩む」久保幸夫著「いさば屋」

第2回魚まちウォークラリー大会開催

おでんもするこもおいしかったよ!!
クイズも遊びも楽しかった、またしてほしい!



まじりの強い風が吹く中、子供達は元気な走り回っていました。チェックポイントで名所にちなんだクイズや昔の遊びなどで得点を競いました。途中で「いきいき子ども学園」の運営委員さんが用意した昔なつかしい味噌田楽を食べる事ができ、口には味噌を付けた子供達が沢山いました。昔の遊びでは、シウキリンと言う石を使った遊びで子供達は苦勞していました。他にもケンやお手玉、くじびき、足じゃんけんなどにチャレンジ。一番人気だったのは※ブラックポックスです。その日は、狭い路地のあちこちで子どもたちの歓声が聞こえ、にぎわいもどりました。ゴールの西小学校の体育館ではワイワイさん達で作ってくれたクイズが待っていてくれて、参加した子どももスタッフもその甘さと温もりで疲れもとびました。色んな団体さんの協力のおかげで無事に終わることが出来ました。地区の皆様ありがとうございました。

「つきだし」
植村 岐穂子
江の浦湾の入り口に「つきだし」と呼ばれる三方海に面した防波堤がありました。先端には赤い灯台があり、大型船の係留や、網置き場などに利用されてきました。昭和40年代まで、お盆過ぎには、戦死者の招魂祭と魚鱗供養の踊りをしていた場所です。◆そこは、子どもたちの絶好の遊び場でした。大人も、いつも誰かしらが釣りをしていました。グレやアジ、ベラやキスなどが釣れましたが、カミソリウナギなどあまりうれしくない魚は、放置されて干からびていました。◆堤防に沿ってカワハギやシウリゲンパンチのんびり泳ぎ、ウルの子が何百と群れをなして泳ぐのがみられました。堤防の下は、切り石が敷き詰められていて大潮になると顔を出すので、下に降りて遊ばずにはいられません。海苔ですべらないように気をつけながら進み、先の方で、石のすきまをのぞくと、まるで天然の水族館のようでした。魚やエビが手の届きそうな場所にあります。でも、すぐ横は海、油断できません。そんな時は必ず誰か一人、見張り役がいて、生き物がしに夢中になっている仲間、大きな船が通ると大声で知らせることになっていました。船が通過した後、大きな波が打ち寄せるため一刻も早く上にはがらないと危険だったので、◆ある日のこと、気付くが遅れて、みんながあわてて逃げた時があり、最後尾の私は、石の上で転んでしまいました。心配かけまいとすぐに立ち上がった堤防によじのぼりに合ったのですが、ざくざくした痛みに気がつき、ひざ頭をみると、何方も切っただけで流れていました。家に帰って、手当てをしてもらいましたが、いきさつは正直に話さなかったような気がしています。そんなスリルを何度も味わった子ども時代は、◆つきだしの横の海は、新しい年をかけた河口まで埋め立てられ、新魚市場やアルファ橋に続く道路ができるなど様相を変え、つきだしがあったことも人々の記憶から消えつつありますが、江の浦を往來する船の安全を見守っていたあの赤灯台がなつかしく思い出されます。

- 魚まち通信目次.....
- トピック
- お知らせ
- 魚まち紹介
- 【浦町のいさば屋通り】
- ウォークラリー
- 郷土資料館
- コラム 『つきだし』
- 名所を歩く
- ながしま井で遊んでみたら?
- 魚まち語録
- 昔ながらの漁法・漁具
- 味自慢
- 歩観会の活動経過

郷土資料館



油瓶
今では珍しい、かなり古い時代の灯明用の油瓶。

参加者募集

今年度も魚まち歩観会では、町づくりを応援してください。興味のある方は紀北町役場産業振興課 商工・観光係 0597-32-1111 ※裏面にこれまでの活動状況や会の紹介をしています。